JAC北九だより

Ｎｏ.６８（平成26年　第２号）

公益社団法人　日本山岳会　北九州支部

kitakyushu Section of The Japanese Alpine Club

発 行:公益社団法人 日本山岳会北九州支部
支部長　伊藤 久次郎
事務局: 福岡市早良区昭代 3-9-5-502
山田 武史方
TEL-FAX 自宅　092-844-3563
携帯　090-6422-5662
編集人: 竹本 正幸
印 刷 : 山口県山口市水の上町2-25
内 藤 製 本 所

門司区の風師山に槇有恒氏の略歴碑

森会長・記念碑を囲んで北九州支部のメンバー

マナスルに初登頂した日本隊の隊長を務めた元日本山岳会会長、槇有恒()氏の功績を伝える略歴碑が、3月21日門司区の風師山(362㍍)山頂に設置され除幕式が行われた。風師山山頂には、すでに槇氏来訪の記念碑が設置されている。昨年2月末、森武昭会長(当時、常務理事)が風師山に登ぼられたときに「最近の若い人は、槇さんがどんな人だったか分からない。寂しいね」と言われたことがきっかけになり日本山岳会北九州支部と地元山岳会が協力して略歴碑が併設されることになった。

当日は午前10時より関門海峡からの強風とみぞれ交じりの天候の中、本部から森会長、福岡支部から中馬支部長以下4人、地元の登山愛好家や北九州支部のメンバーら60人が集まり除幕式が行われた。

略歴碑は縦100㌢、横70㌢のステンレス製。近代アルピニズムの開拓者・紹介者など槇氏の功績やマナスル初登頂を報告するため、九州各地を訪問し、関門海峡を見渡す風師山に登ったことなどが記されている。碑は門司こもれび会の柳原武志氏(柳原鉄工所社長)の製作です。

関口北九州支部副支部長の司会により、森会長、地元山の会代表により日本山岳会旗が除幕され、ステンレスでできた略歴碑が姿を現す。除幕後、森会長により槇氏の紹介と想い出、風師山早朝登山会代表世話人の菱田哲郎氏は堤甚五郎元風師山早朝登山会会長の想い出、北九州支部の丹下洽氏が略歴碑設置の経緯について話された。

「記念碑、略歴碑はいつまでも大切にして、槇氏の功績を後世に伝えよう」と締めくくり除幕式は終了した。終了後は、森会長をはじめ地元の山岳会関係者を囲んで門司倶楽部にて昼食会を開催した。

左から伊藤支部長、森会長、中馬支部長

《ＪＡＣ関係出席者》

(本部)　森　武昭会長

(福岡支部) 中馬董人支部長、高木荘輔副支部長、
佐々木耕二会員、淀川雅之会員

(北九州支部)　敬称略、会員番号順　（計27人）

園川陽造、大庭常生、日向祥剛、井上佑、大城戸昌敏、原広美、大楠益弘、板倉健一、伊藤久次郎、濵松禮子、馬場基介、高畠拓生、関口興洋、山田武史、高城季美子、丹下洽、大木康子、丹下香代子、竹本正幸、池田智彦、赤瀬榮吉、大神信生、森義雄、歳弘逸郎、倉本とき子、大谷恵美子、田中(ビジター)

碑　文

この頂きに立つ
幸福の輝きは
これをとらふる
術を知りし
山人たちの
力によるものなり
昭和三十二年十月
槇　有恒

風師山と槇 有恒氏の記念碑

槇　有恒は、昭和31年のマナスル登頂の後、翌年の32年、登頂報告のため九州各地を訪問された。

10月、槇　有恒が門司に来訪された折に、風師山早朝登山会の堤　甚五郎会長が関門海峡の素晴らしい展望台である風頭にご案内した。その折の感慨を槇　有恒が後にしたためた詩文を基に、堤　甚五郎が記念碑を建てた。その後、風化のため昭和51年４月に再建された。堤　甚五郎はJAC会員(4162)で平成15年12月の年次晩餐会で永年会員の顕彰を受けられることが決定していたが、残念ながら直前の11月21日に急逝された。

平成26年度 第15回通常総会のお知らせ

・と　き：　平成25年4月26日(土)
・ところ：　小倉リーセントホテル
北九州市小倉北区大門1丁目1-17
TEL　093-581-5673
（JR西小倉駅より徒歩５分）

1．受　付　　午後2時から
2．記念講演　午後3時～午後4時30分
講　師　　君原健二氏(マラソンランナー)
テーマ　　「ゴール無限」

3．総　会　　午後4時40分～午後5時40分
4．懇親会　　午後6時～午後8時
5．懇親会費　5,500円／人(税込み)
6．締切り　　出欠は、案内状同封のハガキで
4月19日(土)まで必着のこと
7．問い合わせ
事務局　山田武史まで
(TEL　092-844-3563)

記 念 講 演

・講　師
君 原 健 二

・テーマ　「ゴール無限」

《プロフィル》
1941年　福岡県生まれ
1959年　戸畑中央高校卒業後、八幡製鐵入社
1964年　東京オリンピック　マラソン8位
1966年　ボストンマラソン　優勝
1968年　メキシコオリンピック　銀メダル
1972年　ミュンヘンオリンピック　5位
1973年　競技の第一線を退く
1992年　九州女子短期大学教授（～2001年）

マラソン競技の記録
１．フルマラソン47回出場し、全て完走
２．優勝は14回
３．最高タイムは、2時間13分

◇◇◇英彦山山頂バイオトイレ建設説明会開く◇◇◇

◇完成後は山岳団体などで共同管理

福岡県は、英彦山の中岳(1188㍍)山頂に設置するバイオトイレについて、本年1月30日、添田町のオークホール会議室で、完成後の点検、清掃を担当する山岳７団体などに対して説明会を開いたので、当支部からも伊藤久次郎、関口興洋、山田武史、竹本正幸の４人が参加した。

バイオトイレは、現在中岳山頂にある休憩所の一部（約３分の１）を改造し洋式トイレ２基を設置する。平等に使用するため男女の区別はなし。排泄物を微生物が分解するため、くみ取りは不要で、微生物を入れた木材チップをかき混ぜたり熱を加えたりする発電機と、電源確保のため屋根に太陽光パネルを取り付ける。トイレの出入りは外からで、24時間稼働。異常があれば赤ランプが点灯する。従って現在の休憩所の残り部分には、雨戸や明かり取り窓を取り付ける。

オークホール会議室にて

工事は福智山(901㍍)のバイオトイレを設置した機械メーカー「アイテックシステム」(飯塚市)が担当する。3月末に完成予定であったが、天候などの影響で遅れており、5月25日の山開きまでには完成させたいとのこと。

◇北九州支部も清掃・点検に参加

清掃、点検は添田町から依頼された地元の山岳団体「筑豊山の会」が主として担当し、毎週行なう。その他英彦山観光協会、県立英彦山青年の家、町観光ガイドボランティア、日本山岳会北九州支部、日本野鳥の会筑豊、田川かたつむり山の会の６団体も週１回、持ち回りで担当する。

北九州支部の担当予定日は、とりあえず６月11日(水)、７月23日(水)、9月3日(水)となっている。

この計画は、今後継続するので、支部会員は積極的に参加していただきたい。

（伊藤久次郎）

3月2日(日)

海外登山・遭難対策研究会

14852　竹本正幸

恒例の海外登山・遭難対策研究会が、北九州市戸畑区の「ウエル戸畑」で開催された。

13時より福岡県山岳連盟会長のあいさつに始まり、次の４隊の海外遠征隊から報告があった。プロジェクターを使っての報告は非常にわかりやすく、特にマッターホルンのイタリア側からの登山報告は興味深く拝聴した。

1．日本エルブルース＆デマンド登山隊　成末　洋介
2．マッターホルン・イタリア側チェルビーノ登山隊　溝尾　秀樹
3．グロスグロックナー(オーストリア)登山隊　北九州市役所山岳部OB　花田　拓二
4．「世界の山々を歩いて」海外の山紹介　日本山岳会福岡支部　渡部　秀樹
5．遭難対策部会から報告　菊澤眞一郎

最後に主催者側から24年度の山岳遭難について

マッターホルンチェルビーノ登山隊の報告

の報告がされた。遭難者数は2,465人と前年に比べ11.8%増、態様別には道迷いが41.8%と一番多い。年齢層別には60～64才が377人、65～69才が304人、70～74才が272人で中高年がやはり多い。通信手段としては携帯電話の使用が68.5%。

報告終了後は、場所を変えて会員と参加者による懇親会が行われた。

参加者：原　広美、伊藤久次郎、関口興洋、山田武史、竹本正幸

平尾台行方不明者の捜索終了

13499　伊藤久次郎

平尾台の野焼き

平尾台の野焼きが積雪や雨天で延び延びになっていたが、さる3月8日(土)消防、自衛隊、警察など関係者300人により実施された。そしてその翌日、野焼きが行われきれいに浮き出た羊群原一帯と大穴の周囲や底などを再捜索した。

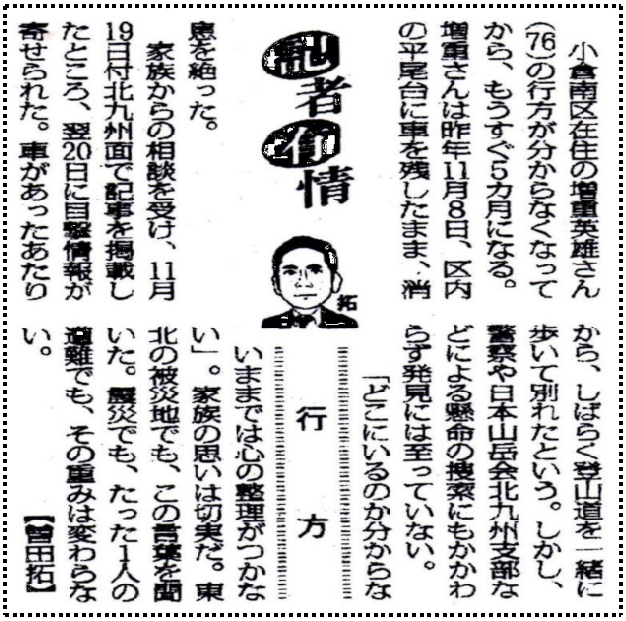
支部報67号ですでに報告したが、昨年11月8日平尾台の茶ケ床園地から大平山に登った小倉南区の増重英雄さん(当時75歳)が、翌9日になっても帰宅せず、家族から警察に捜索願が出され、10日と20日の２日間、警察官延べ60人による大捜索が行われた。

我が日本山岳会北九州支部でも、増重夫人から知人を通じて相談があり、11月18日から12月16日までの10日間、支部会員延べ178人を動員して平尾台の捜索を実施したが、全く手がかりが無くやむなく捜索を打ち切った。

その後、本年になって平尾台の野焼きが2月23日に行われることが分かり、野焼き当日に行方不明者が発見されるかもしれないという最後の望みを託して、茶ケ床での特別観覧（14人）を申し込んだ。しかし積雪などの影響で3月8日に延期となり、その日は私1人で朝から一般観覧に出向いた。順調に野焼きが行われ、午後3時過ぎに終了したが、期待した望みは得られなかった。それならと、野焼き後の最後の捜索を翌日実施することに決め、増重家族との連絡をして頂いている大楠会員に捜索の結果を報告した。

3月9日(日)午前9時、平尾台茶ケ床園地に関口、山田、馬場、竹本正、西村夫妻、大木、赤瀬、伊藤の9人が集合。3人ずつの3班に分かれて、それぞれのコースの焼け跡を捜索しながら、最終的に大穴の周囲を捜索し正午ごろ塔ケ峰で合流し昼食。昼からは、時折雪がちらつく中で大穴の底に下りて捜索したが、全く何も手がかりは得られず、誠に残念な気持ちで下山したのであった。

今回の平尾台捜索第1回から野焼き後の捜索まで、参加して下さった会員の皆さんに対しては本当にご苦労様でした。深く感謝いたします。有り難うございました。



記者の情

行方

小倉南区在住の増重英雄さん(76)の行方が分からなくなってから、もうすぐ5カ月になる。増重さんは昨年11月8日、区内の平尾台に車を残したまま、消息を絶った。

家族からの相談を受け、11月19日付北九州面で記事を掲載したところ、翌20日に目撃情報が寄せられた。車があったあたりから、しばらく登山道を一緒に歩いて別れたという。しかし、警察や日本山岳会北九州支部などによる懸命の捜索にもかかわらず発見には至っていない。

「どこにいるのか分からないままでは心の整理がつかない」。家族の思いは切実だ。東北の被災地でも、この言葉を聞いた。震災でも、たった1人の遭難でも、その重みは変わらない。【曽田拓】

4月3日毎日新聞より

一等三角点研究会1月28日(火)～29日(水)
図書出版記念祝賀会に参加して

11990　原　広美

昨年「一等三角点全国ガイド本」に続いて、500m以下の続編が2014年1月28日、ナカニシヤ出版から発行された。私共も現地取材して写真など提供したこともあり、北九州地区会員（今回は伊藤、高畠、濱松、原の４人）が京都ロイヤルホテルでの祝賀会に参加した。

日本山岳会の元会長、齋藤惇夫さんをはじめ、たくさんの参加者で会場は盛り上がった。

諸先輩方の苦労話を聞いたり、次の目標の山などを聞くと、私も頑張るぞと言う気持ちになりました。

齋藤惇生さんを囲んで(右から２人目)

翌日は京都・滋賀支部会員の津田美也子さんに、天下分け目の天王山やアサヒビール、大山崎山荘美術館など案内していただき、楽しい冬の京都を満喫しました。全国976の一等三角点を求める山登りも面白いものです。

月例山行　1月18日(土)

「雲仙の霧氷を見る」

北九446　清家　幸三

＜コースタイム＞

小倉南IC(5：00)→古賀SA(5：25)→仁田峠駐車場(8：15)→普賢岳(12：22)→駐車場(13：25)

普賢岳山頂にて

午前５時、小倉南IC入口で縄手さんの車に森さんと合流。５時25分古賀SAで赤瀬さんと合流。途中休憩しながら、諫早IC経由で国道57→251号を通り8時05分仁田峠駐車場に着きました。

天気予報では、曇りのち雨で、天気図では雲仙の霧氷は見れると予想していました。朝、明るくなるにつれて島原は良好な天気になりました。

仁田峠から眺める山々は雪模様が全く見えませんでした。霧氷には会えないと思いながら、雄大な普賢岳、広大な平成新山に圧倒されていました。仁田峠駐車場は風が強く肌をさす寒さで温度計はマイナス３度を指していました。

出発前に赤瀬リーダーより山行記事の担当を言い渡されました。初めてのことでしたので戸惑いながら了解しました。

8時15分に出発して妙見神社から妙見岳（1330㍍）に着くと北東斜面の木々に最初あきらめかけていた待望の霧氷が私達を迎えてくれました。突然の霧氷は同時に1月の季節の山行をより一層、興味深くしてくれました。

次に国見分れと進んでいきました。目前にせまる国見岳（1347㍍）は登る予定に入っていませんでしたが、リーダーの問いかけに「行きましょう」と決まり大きな石場の多い急斜面を這い上がりました。今、作文中に気づきましたが赤瀬リーダーが早歩きの理由はここでの時間を取り返すためだったのですね。

国見分れから、鬼人谷口へ下りの雪道に入りました。西の風穴を通って少し過ぎたところでアイゼンを装備しました。北の風穴そして鳩穴分れと風穴の説明書に蚕の飼育に使っていたとありましたが、昔の人は現代人に比べて想像以上に野人に近かったからこんな険しい場所に行き来できたのだろうと思いました。

登りの一方通行の雪道を一気に立岩の峰まで進み、霧氷沢へ行きました。ここは名前どおりで一時の間、疲れも忘れてきれいな雪の花に見とれていました。その後、目前にせまる新山の警戒区域のラインが張られている近くで昼食をとりました。まだ煙が立ち上がっていました。

新しい山が100㍍も高くて何倍も大きい岩山に接した景色は自然の計り知れなさにさらなる驚きを覚えました。普賢岳(1359㍍)で記念写真を撮りましたが、いつの間にかガスが視界を遮る景色に変わってきて霧状の粉雪が舞ってきました。

下山は紅葉茶屋経由で仁田峠は13時25分でした。山の天候もこのころから少し雪がちらつき始めました。出発時にリーダーが私達に伝えた到着時間が同じでしたので、今日一日大自然に驚きました未熟者ですが、リーダーの時間管理の正確さにさすがだなと思いました。

帰りは雲仙小地獄温泉が疲れを癒してくれました。源泉かけ流しのこの温泉は、もう一度訪れたいと思いました。

記するに尽きない思い出がたくさんこころに焼きついた一日でした。皆さん有難うございました。

最後に今回の山行で自家用車を出してさらに往復の運転を一日していただきました縄手さんにこの場をお借りしてお礼申し上げます。お疲れ様でした。

参加者：４人

赤瀬榮吉、縄手 修、森 義雄

清家幸三

スキー合宿　3月14日～16日

大佐スキー場にて講習会

15387　森　義雄

大佐スキー場にて

当支部スキー部主催の合宿講習会が島根県大佐スキー場で開催されました。参加者は池田スキー部長、関口副支部長、馬場さん、大木さん、竹本さん、そして今回初めての参加森の6人。

出発は夜行バスのため、壮行会をかねて早めの集合。駅前で懇親を深めながら、スキーのスケジュールを確認、乗車時は赤ら顔となる。車内はほぼ満席、若者が多い。

夜12時に小倉駅前を出発、一般道を通り、途中「みちしお」で休憩、ここでもミーティング。

乗車後は酔いも回りぐっすり眠りにつく。早朝5時頃、途中の乗り換えもあり停車が続く。

6時30分ころに大佐スキー場に到着、あたり一面は雪世界、昨日から雪も降り、雪質条件も3月中旬にしては良好。重い着替え、道具を抱えて、休憩ハウスに向かう。私が記憶している20年前はプレハブでしたが、今はきれいに改装され、更衣室やベビー室も完備している。

更衣室で着替えて、8時のリフト運転開始までくつろぎながら、みんなでこれまでのスキー歴に会話が弾む。ここで、まず森がトラブル、スキー板、ブーツはあるがストックがない、忘れた。結局レンタルで1000円払い借りる。次は竹本さんレンタル靴のサイズが合わず、靴は旅行会社が博多でバス乗車時に準備したため、交換できず困っていたが現地レンタルショップの好意で交換することができ、やれやれ安心、準備OK。

8時営業開始が近づくにつれて、段々気持ちも高まり、池田部長の号令で外に出て柔軟体操をして準備。ところが、8時になっても従業員が現れず、しかもゲレンデで待つスキーヤーもまばら、場内放送で「只今、リフト故障のため点検中」とのこと、しかも1機しか動かない様子、20分ほどして運転開始、のんびりした施設である。

講習会は、池田部長の指示のもと、午前中各人の技術の確認、前回はボーゲンで滑れたとか、こけなかったとか相互に確認して、練習に入る。ゲレンデは雪質もよく、圧雪されて滑りには良好。滑っているスキーヤーは150人ぐらいか。本当に少ない！

ふと思い出すのは、私が訪れた30年ぐらい前は、大佐スキー場はまだロープ塔もあり、リフトも20～30分ぐらい待ちの混雑で初中級者用のゲレンデとして通った。ボーダーもいない時代でしたが、今は7割ぐらいの方がボーダーの若者、スキーヤーは年配の方が多いようである。

午後から、個人レッスンで大木さん、馬場さんが池田部長からの指導で汗だくになり滑る。

竹本さんは関口さん指導のもとリフトに乗り、ゲレンデ上部で練習。こうすればいいと言葉は頭でわかるが、体が動かず。スキーの難しさは練習のみで解決するしかないとあきらめ、馬場さんは黙々とひたすら練習に励む。私も、午前中に上部ゲレンデに登ってみたが、コースは雪質も良く、やや狭いが上級者向き。

14時半になり、朝が早かったことから、本日の講習会は終了、やれやれ、お疲れ様でした。道具を抱えて、宿泊の「いこいの村ひろしま」に車で向かう。
宿は戸河内インターに近く、向かうにつれて雪も少なくなり、スキー場から25分くらいで到着。

疲れた筋肉をいやすため早速風呂へ、18時から食事、まずは乾杯。体力を使い食欲も進み、さらにお酒も進む。2次会は部屋で山とスキーの談義、さすが長い経験を誇る諸先輩の話は尽きない。22時前に終わり、消灯。夜中はいびきの大合唱。

2日目は、8時半過ぎに大佐スキー場に到着。今日はリフトに全員で乗ることを合言葉に講習会が始まる。本日は前日と違い晴天、気温が上がり、だんだん雪は緩み、昼からはシャーベット状態。馬場さんは、独りリフトに乗り、ひたすら練習、大木さんはゲレンデ周辺をウオッチング、竹本さんは休憩もせずひたすら練習。私もゲレンデを滑り

ながら、景色を楽しむ。

2日目は、14時過ぎに無事終了、全員けがもなく、足取りも軽い。2日間のスキーの反省会を行う。来年は、池田部長から北海道でスキー強化合宿の提案があり、行きたいなぁで了解。

16時にバスに乗車、17時に再度北九州方面へのバスに乗り替え、バスの最後部座席に陣取りミーティングが始まる。小倉には夜20時半に到着。下車後、反省会を再度「駅亭」で行い解散。

2日間本当にお疲れ様でした。私も山岳会に入会し、初めての参加。スキー歴は国鉄小倉工場に入り、山岳部の先輩について始めてから35年目、ＪＲ九州になり競技スキーを経験し、全国のスキー場に行く機会に恵まれた。山行歴は少ないが、スキーをかついで山に登り、好きになった。今は昔の仲間と年1回のスキー程度ですが、これからは山岳会の方とスキーを楽しみたいと思う。

山岳会の皆さんも冬のスキーも楽しいかと思います。朝から夜まで、スキーとアフタースキーを丁寧にお教えいたします。ぜひご参加を・・・

参加者：6人
関口興洋、馬場基介、大木康子、池田智彦、竹本加代子、森　義雄

3月18日(火)

「幸(さいわい)幼稚園」矢筈山お別れ登山

14264　丹下　洽

矢筈山キャンプ場にて

昨春風師山ハイキングの折、「この道を下ると小森江こどもの森に着くんだって、行ってみたいね・・」との園児の言葉が心に残り、この夢をかなえるべく、矢筈山お別れ登山をしたい。つきましては、お世話になっている山岳会の皆様にカレーライスを作ってご馳走したいとの幸幼稚園からの支援要請とご招待があった。

すべての用具はキャンプ場で借りることにして、男の子は玉ねぎ１個、女の子は人参１本、保護者はじゃがいも１個、大人も子供もお米１合、園はカレールーと肉を持っていくことになった。

小雨の降る中出発する。ゲート前で雨もやみ、雨具を脱いで歩く。100㍍ごとの標識にある昆虫や動物の当てっこや話をしているうちにキャンプ場到着。

一足先に登って準備をしてくれていた池田会員やスタッフによる諸注意を受け、スタッフや会員の指導で飯ごう炊飯の米のとぎ方、水のはかり方、火のおこし方、野菜の皮むき、切り方など園児、保護者全員で行う。

小雨を避けて壕(ごう)の中でお祈りのあと昼食にする。ご飯は少し硬かったが、カレーにはちょうど良い。ほとんど全員がお代りをして、子供たちも本当に楽しそうです。

食後の片付けの後は自由遊びになる。ここ矢筈山は旧陸軍の砲台跡、地下壕、兵舎、弾薬庫、井戸などが残り、最近はテレビ、映画のロケも行われている。矢筈山頂上に登り、下山とする。

登りは元気だった子供たちも昼食後、眠っけと疲れで足がおもそう。風師山より矢筈山は歩く距離が長く年少、年中組は無理なので、やはり年長組の行事のようだと園は判断されたようです。

子供の森で解散、この子らも4月からは小学生、健やかに育ってほしいと願うばかりです。

参加者：園児８人
　　保護者７人、先生2人
・日本山岳会北九州支部
　関口興洋、馬場基介、丹下 洽、
　丹下香代子、池田智彦
・戸ノ上山登山会：壱岐　勝
・門司歩こう会：小田幸男

3月16(日)

巨石と信仰の山「米神山(475㍍)」

北九461　奥田スマ子

コースタイム　登山口(11：00)～千岩滝(11：35)～頂上(12：20～13：00)～林道にでる(14：00)～登山口(14：20)

米神山山頂にて

今日は天気予報どおり晴天に恵まれ絶好の登山日和となった。本来なら12月に行くはずの米神山だったけれども、雨のために今日に変更になった山である。私にとって米神山は初めての山。この山行をとても楽しみにしていた。

晴天であることに感謝しながら８時30分集合の「豊前おこしかけ」に早めに行き、みんなが来るのを待つ。参加者12人が集合したところで４台の自家用車に分乗して出発した。目指すは宇佐市安心院町佐田地区。宇佐別府道路の院内インターチェンジを抜け県道42号線を通り10時すぎ目的地に到着した。

米神山巨石祭が開催されている会場はすでに多くの人でにぎわっている。私たちは受付をすませて、ちょうど始まったばかりの米神山巨石祭と山開き神事に参加させていただいた。宇佐神宮の神官、みこによって山の神の鎮魂と登山者の安全を祈願して玉串と舞が奉納される。

神事が行われた場所「京石」はいつ、だれが、何のために造られたのか、その由来が謎に包まれた存在であると聞いた。地面に突き刺さったようないくつかの巨石は、将来学術的に研究解明される日が来るかも知れないが、このまま謎に満ちた巨石群であるのも夢があってよいと思えた。

神事終了後、多くの登山者と一緒に私たちも登山を開始した。主催者によると、この日の登山者は老若男女合わせて150人が参加しているそうです。

周囲の木々に視線を向けながらしばらく歩いて行くと、徐々に急登になってきた。米神山はロープが多い山だと濵松さんから聞かされていたので、どんな山だろうといろいろ想像を巡らせてきた。巨岩が多いというので岩山をロープで登ることをイメージしていた。実際に来てみると急斜面の道にロープが張られている。ロープにつかまり休憩を挟みながら登る。樹木の間から見える遠く山並みの景色に癒されながら登ること1時間ちょっと。12時すぎ山頂に着いた。

山頂からは南側に展望が広がり、宇佐の町や遠く由布岳など見渡せた。山頂広場は登山者でいっぱいだったが何とか場所を見つけて座り、受付で配られたおにぎり弁当を頂いた。地元婦人会手作りでおいしく、おもてなしの心が伝わってくる。

下山は往路とは別の道を通ると言うので、今度はロープがあまりないだろうと思っていたら考えが甘かった。登りではあまりの急登に気分が悪くなる人、「ゆっくり行ってくれ」と叫ぶ人がいたけれども、下山もまた急斜面に長いロープが続いているではないか。

悪路に転んでお尻を打つ人、長いロープが延々と続き「もう飽いた！」と言う人、手袋がボロボロになったと言う人～等々。以前の山行時に先輩から「登り体力、下り技術」と教わったことがあったが、まさしくこのことをいうのであろう。

そして、傾斜も緩やかになり、「霊岩・霊水」を通り流れに沿って歩くと下山口に無事に着いた。下山したすぐの所、水田の中に米神山方向に傾斜した立石があり、その石について丹下さんより説明を受けて興味がわく。私有地なので、近寄って観ることは出来なかったけれども、耕作の邪魔になるのになぜ取り除かないのか。昔からのいわれによりそこに存在しているのだろうが、不思議な光景を遠くから眺めたりした。そして、地元の人と触れ合い、特産物を買って帰路に着いた。

私にとって今回の米神山山行は、地元歴史の見聞、お祭りへの参加やおもてなしなど、米神山をまるごと楽しんだ気持ちになりました。そして、オマケの河津桜見物もあって収穫の多い一日となりました。皆様方、大変お世話になりました。

参加者：13人

伊藤、原、山田、丹下(治)、丹下(香)、竹本(正)、濵松.今田、加藤畑井さん親子、倉本、奥田

個人山行　2月7日(金)～11日(火)

「大 山 顛 末 記」

14853　竹本　加代子

コースタイム　　南光河原(6：30)～頂上避難小屋(9：45～10：20)
～六合目(11：00)～元谷(12：15)～テント場着(13：50)

2月度大山の月例山行が中止となった。しかし、やっぱり冬の大山に登りたい。血が騒ぐとは大げさであるが、今年登らないでいつ登るの！　という気持ちに駆られる。新年早々、帯状疱疹の後遺症で痛みが続いていた竹本は月例山行が中止となったことで、さらに戦意喪失ぎみだった。そんな中で個人山行に切り替え計画する。

運良く7日の高速バス米子行きに空席が２つありラッキーだった。この週末の天候は、太平洋側に急速に発達した南岸低気圧の影響で日本列島は強風をともなった大雪が予想された。８日早朝米子駅に到着。気温はそう低くなく雪はところどころに寄せられてはいるが、周辺には積雪はなく意外であった。大山寺に向かうバスからの風景は米子を離れるにつれ一変する。次第に雪が降りしきり立ち往生する車もあちこちに見られた。

大山寺に到着するが問題発生。竹本のお腹の状態が思わしくなく、昨日から正露丸を服用するも治まらず、とりあえず下山キャンプ場まで移動する。荷物を置いた後、尾高上までバスで引き返して病院へ。

よりによってこの山行でと思いながら、降りしきる雪の中、私は1人深い雪をワキに積み上げながら雪を踏みしめ、テントスペースを整地していく。テントを張りフライを付け、掃う先から雪まみれになるザックをテントに入れる。やっと設営完了した頃に竹本はタクシーで戻り、テント場に到着。午後予定していた元谷での雪上訓練も中止してテントで沈殿する。お腹は回復せず食欲もなく、ノロウイルスかもと気分は少々ブルーで夕食メニューの雑煮を食す。一応、明日は計画どおりの行動予定とする。

８日4時30分起床。まだよろしくない体調を気遣いつつも弥山登山の中止も単独も言葉にしなかった。テント周りに積もった雪を片付け、少々遅めの６時30分南光河原から夏山登山道を出発。

ブナ林の尾根をつぼ足で４合目あたりまで登りアイゼン装着。５合目を過ぎ、一登りで６合目の避

弥山避難小屋にて

難小屋に到着。樹林帯を抜けたあたりから風雪が厳しくなり、ここから引き返すグループも見受けた。

デコボコにクラストして傾斜のきつくなった雪面が待ち受け、風も強く雪も激しく舞い、身も引き締まる。目出し帽とサングラスをつけ、吹雪の中をかき消されたトレースと目印の旗を探しつつステップを刻む。

今年は昨年トライした三鈷峰も剣ヶ峰から天狗に続く縦走路の展望もきかぬまま頂上避難小屋に９時45分到着。2階から鉄梯子を下り30分ほど休憩して頂上へ。

下山は一気に６合目まで下る。5合目からは広島労山の4人グループの方たちと前後しながら、行者尾根を元谷小屋までラッセルを繰

6合目から上部

り返し最後は尻セードで下山。トレースもなく1時間を要した。元谷で労山の方と別れる。竹本は体調が良ければ弥山尾根西りょう取付きまで偵察をしたかったようだ。大神神社を経てテント場へ帰着。

降りしきる雪のため隣のテントは重さに耐えかね歪んでしまっている。今夜は雪かき覚悟の夜になり、結局埋もれゆくテントの雪を三度ほど雪かきする。

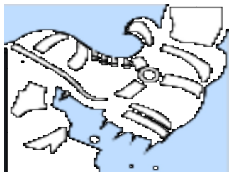
10日朝から吹雪いている。昨日のうちに次々に撤収されテントは4張りになる。スパッツを付けないとテントを出ていけない状態である。スキーの予定なので朝はゆっくり朝食を取る。

雪が降りしきる中テントの撤収は本当に大変だった。バスターミナルに移動したのは10時。吹雪で視界も悪くケガするよと土産屋さんに言われた。諦めもつきスキーを中止した。

昨年の秋にできた温泉でゆっくりホッコリ過ごして14時50分のバスで米子駅へ。高速バスで小倉に11日５時35分着。米子に着いたころから竹本の体調もやっと回復した。

トラブルはあったが今年も登れて良かった。また、来るよと心に決めた私の冬山でした。

参加者：竹本正幸、竹本加代子



ルーム日記

2014年1月～3月

月　日	曜日	当番	利　用　者	備　　考
1月9日	木	馬場	大庭	
10日	金	伊藤		
14日	火	森	伊藤、丹下(洽)	毎日新聞社に取材養成
16日	木	木原	井上(佑)	
17日	金	山田	関口、馬場	吉村氏宅訪問、家賃支払い
20日	月	丹下	丹下(香)	
21日	火	関口		
22日	水	伊藤	山田、関口、丹下(洽)	資料作り、サロン
23日	木	木原		槇有恒氏略歴碑 打ち合わせ
24日	金	竹本		
27日	月	丹下	丹下(香)	
28日	火	山田	馬場	
30日	木	馬場		
31日	金	森		
2月3日	月	丹下	丹下(香)	
4日	火	関口	大庭、高城	
5日	水	伊藤	関口、丹下(洽)、丹下(香)	
10日	月	森		
12日	水	竹本	伊藤、関口、山田、馬場、丹下(洽)	槇氏略歴碑、平尾台野焼き、会計等
17日	月	丹下	関口、馬場、丹下(香)	家賃支払い、槇氏略歴碑打ち合わせ
18日	火	関口		
19日	水	伊藤	関口	諸事打ち合わせ
20日	木	馬場		
21日	金	竹本		
24日	月	丹下	丹下(香)	
25日	火	森		
26日	水	伊藤	山田	サロン
27日	木	木原		
28日	金	山田	関口	
3月1日	土		馬場	事務処理
3日	月	丹下	丹下(香)	
4日	火	関口		
5日	水	伊藤	役員12人(全員参加)	役員会
6日	木	竹本	竹本(加)	前日の後片付け
7日	金	森	関口	
11日	火	関口		
12日	水	馬場		
13日	木	木原		
14日	金	山田	丹下夫妻	報道部取材要請(幸幼稚園)
17日	月	丹下	丹下(香)	
19日	水	伊藤	山田、丹下(洽)、丹下(香)	報道部取材要請(槇氏略歴碑)
20日	木	木原	森会長、伊藤、関口、山田、馬場 丹下夫妻、縄手	日本山岳会森武昭会長来訪 3月分賃貸料支払
24日	月	丹下	丹下(香)	代表室、報道部へ取材お礼あいさつ
25日	火	竹本	丹下夫妻	報道部より紙面受取り(幸幼稚園)
26日	水	伊藤	山田、馬場、竹本、縄手	編集会議、本部会計報告書説明
27日	木	馬場		
28日	金	関口		
31日	月	丹下	大庭、丹下(香)	

ルーム当番

会員はいつでも警備室からキーをもらって入室できます。
当番へのご協力お願いします。連絡先：山田武史（TEL092-844-3565）

4 月

	当番	備　　考
1日(火)	関口	
2日(水)	伊藤	臨時役員会
3日(木)	縄手	
4日(金)		山行委員会
5日(土)	／	
6日(日)	／	英彦山清掃登山
7日(月)	丹下	
8日(火)	関口	
9日(水)	竹本	
10日(木)	森	

	当番	備　　考
11日 (金)	山田	
12日(土)	／	登山講習会
13日(日)	／	同　　上
14日(月)	丹下	
15日(火)	関口	トイレ協議会
16日(水)	伊藤	
17日(木)	木原	
18日(金)	森	
19日(土)	／	
20日(日)	／	岩登り教室

	当番	備　　考
21日(月)	丹下	
22日(火)		
23日(水)	伊藤	小倉サロン
24日(木)	木原	
25日(金)	関口	
26日(土)	／	支部総会
27日(日)	／	
28日(月)	丹下	
29日(火)	／	冠山、寂地山
30日(水)		

5 月

	当番	備　　考
1日(木)		博多サロン
2日(金)		
3日(土)	／	
4日(日)	／	
5日(月)	／	
6日(火)	／	
7日(水)		役員会
8日(木)		
9日(金)		
10日(土)	／	

	当番	備　　考
11日(日)	／	登山講習会
12日(月)	丹下	
13日(火)	関口	
14日(水)	伊藤	ビデオ上映会
15日(木)		
16日(金)	森	
17日(土)	／	
18日(日)	／	岩登り教室
19日(月)	丹下	
20日(火)	関口	

	当番	備　　考
21日(水)	伊藤	
22日(木)	山田	
23日(金)		
24日(土)	／	英彦山山開き
25日(日)	／	同　上
26日(月)	丹下	
27日(火)	関口	
28日(水)	伊藤	小倉サロン
29日(木)	森	
30日(金)		松本～新島々
31日(土)	／	新島々～徳本峠

6 月

	当番	備　　考
1日(日)	／	ウエストン祭
2日(月)	丹下	焼岳
3日(火)		
4日(水)	竹本	
5日(木)		
6日(金)	関口	
7日(土)	／	
8日(日)	／	犬ケ岳
9日(月)	丹下	
10日(火)	関口	

	当番	備　　考
11日(水)	伊藤	
12日(木)	竹本	
13日(金)		
14日(土)	／	登山講習会
15日(日)	／	
16日(月)	丹下	
17日(火)	関口	
18日(水)	伊藤	
19日(木)		
20日(金)		

	当番	備　　考
21日(土)	／	
22日(日)	／	
23日(月)	丹下	
24日(火)	関口	
25日(水)	伊藤	
26日(木)		
27日(金)		
28日(土)	／	トイレ協議会
29日(日)	／	
30日(月)	丹下	

ルーム蔵書紹介

NO.	書　名	著　者	発　行	寄贈/購入別
1	日本山岳名著全集１	ウエストン、児島烏水	あかね書房	重村伝平
2	日本山岳名著全集４	槇有恒　他	あかね書房	重村伝平
3	日本山岳名著全集５	大島亮吉　他	あかね書房	重村伝平
4	日本山岳名著全集６	細井吉造、他	あかね書房	重村伝平
5	日本山岳名著全集８	石川欣一　他	あかね書房	重村伝平
6	日本山岳名著全集９	三田幸夫、他	あかね書房	重村伝平
7	日本山岳名著全集１０	西岡一夫　他	あかね書房	重村伝平
8	日本山岳名著全集１１	志村烏嶺　他	あかね書房	重村伝平
9	日本山岳名著全集１２	安川茂雄　編	あかね書房	重村伝平
１０	私の一名山	日本山岳写真集団	河出書房新社	重村伝平
１１	憧憬のヒマラヤ	本田勝一	すずさわ書店	重村伝平
１２	日本アルプスの自然	小林国男	菊池書館	重村伝平
１３	アンナプルナ南壁	クリス・ボニントン	白水社	重村伝平
１４	悦ばしき登攀	串田孫一	筑摩書房	重村伝平
１５	還暦のエベレスト	宮原　巍	山と渓谷社	重村伝平
１６	三角点を求めて四百山に登る	重村伝平	日刊工業新聞社	重村伝平
１７	単独行	加藤文太郎	朋文堂	重村伝平
１８	エベレストその人間的記録	ウィルフリッド・ノイス	文芸春秋新社	重村伝平
１９	周防アルハイク、故郷のヤブ山８０選	安部正道	マツノ書店	重村伝平
２０	屏風岩登攀記	石岡繁雄	硯学書房	重村伝平
２１	山なみはるかに	三田幸夫	白水社	重村伝平
２２	遠い山遥かな旅	三田幸夫	新潮社	重村伝平
２３	６３歳のエベレスト	渡邉玉枝	白水社	重村伝平
２４	九重風物詩	立石敏雄	筑紫山岳会	重村伝平
２５	山行	槇有恒	岡書院	重村伝平
２６	マナスル登頂記	槇有恒	毎日新聞社	重村伝平
２７	若き日の山行	ルイ・ラシュナル	白水社	重村伝平
２８	黒部立山アルペンルート	深井三郎	古今書院	重村伝平
２９	九州山岳　１	新島章男	朋文堂	重村伝平
３０	九州山岳　２	新島章夫	朋文堂	重村伝平
３１	山のパンセ	串田孫一	実業之日本社	重村伝平
３２	中央アルプス	塩沢一郎	山と渓谷社	重村伝平
３３	ヒマラヤトレッキング	増田義和	実業之日本社	重村伝平
３４	剣岳（点の記）	新田次郎	文春文庫	重村伝平
３５	冬山の掟	新田次郎	文春文庫	重村伝平
３６	星と嵐、６つの北壁登行	ガストン・レビュファ	新潮文庫	重村伝平
３７	山と雪の日記	板倉勝宜	中公文庫	重村伝平
３８	山	大島亮吉	中公文庫	重村伝平
３９	ナンダ・コット登攀	竹節作太	大阪毎日新聞社	重村伝平
４０	槍ヶ岳開山・播隆	穂刈三寿男・貞雄	大修館書店	重村伝平
４１	山の文学全集　１わが山山	深田久弥	朝日新聞社	重村伝平
４２	山の文学全集　２山頂、山麓	深田久弥	朝日新聞社	重村伝平
４３	山の文学全集　３わが愛する山々	深田久弥	朝日新聞社	重村伝平
４４	山の文学全集　４山岳遍歴	深田久弥	朝日新聞社	重村伝平
４５	山の文学全集　５日本山名山	深田久弥	朝日新聞社	重村伝平
４６	山の億ひ出　上・下巻	木暮理太郎	龍星閣	重村伝平
４７	悲劇の山、栄光の山	深田久弥	文芸春秋新社	重村伝平
４８	もう一つの剣岳・点の記	川崎深雪	山と渓谷社	重村伝平

４９	会員名簿	日本山岳会	日本山岳会	重村伝平
５０	会員名簿	日本山岳会	日本山岳会	重村伝平
５１	日本の山百景	山岳写真同人　四季	東京新聞出版局	井上　佑
52～54	ヒマラヤへの挑戦　１～３ ８０００m峰登頂記録	日本ヒマラヤ協会	アテネ書房	井上　佑
５５～６４	ケルン１～ケルン１０まで	ケルン編輯室	アテネ書房	井上　佑
６５～７７	世界山岳全集１～　１３まで	日高・藤木・深田　監修	朋文堂	関口興洋
７８	山靴の音	芳野満彦	朋文堂	関口興洋
７９	山の足音	畦地梅太郎	創文社	関口興洋
８０	垂直と水平の道	高木正孝・渡辺兵力	創文社	関口興洋
８１	岩と雪の王国	吉田二郎	二玄社	関口興洋
８２	白い蜘蛛、アイガー北壁	ハラー	白水社	関口興洋
８３	北アルプス大日岳の事故と事件	斉藤惇生	ナカニシヤ	関口興洋
８４	日本の分水嶺をゆく	細川舜司	新樹社	関口興洋
８５	北海道中央分水嶺踏査記録	日本山岳会北海道支部	日本山岳会北海道支部	関口興洋
８６	東海山岳第１０号	日本山岳会東海支部	日本山岳会東海支部	関口興洋
８７	九州の山	立石敏雄	しんつくし山岳会	関口興洋
８８	登山	日本山岳会	ベースボールマガジン社	関口興洋
８９	山のパンセ	串田孫一	集英社文庫	関口興洋
９０	たった一人の山	浦松佐美太郎	文春文庫	関口興洋
９１～１００	山岳４９～山岳６９	日本山岳会	日本山岳会	重村伝平
１０１	山岳創立７０周年記念号	日本山岳会	日本山岳会	重村伝平
１０２	１２５山岳７１～山岳９	日本山岳会	日本山岳会	重村伝平
１２６	写真で見る日本山学会の１００年	日本山岳会	日本山岳会	日本山岳会本部
１２７	ジャパニーズ・アルパインニュース	日本山岳会	日本山岳会	日本山岳会本部
１２８	中央分水嶺踏査報告書	日本山岳会	日本山岳会	日本山岳会本部
１２９	踏みあと（中央分水嶺踏査記録）	日本山岳会北九州支部	日本山岳会北九州支部	支部制作
１３０	英彦山（北九州支部創立１０周年記念誌）	日本山岳会北九州支部	日本山岳会北九州支部	支部制作
１３１	アンナプルナ　女の闘い７５７７m	女子登攀クラブ	東京新聞出版局	伊藤久次郎
１３２	完全図解野外生活サバイバル全書	梶原玲・成田式部　監修	東洋出版	伊藤久次郎
１３３	計画と用具　登山教室１	細田　充	山と渓谷社	伊藤久次郎
１３４	尾根歩きと生活技術　登山教室２	内田良平	山と渓谷社	伊藤久次郎
１３５	雲と天気　登山教室６	飯田睦治郎	山と渓谷社	伊藤久次郎
１３６	地図と地形　登山教室７	石山　尚	山と渓谷社	伊藤久次郎
１３７	坊がつる山小屋日記	川上信也	海鳥社	伊藤久次郎
１３８	落ちこぼれてエベレスト	野口健	集英社	伊藤久次郎
１３９	私のヒマラヤダウラギリⅣ峰	今井通子	朝日新聞社	伊藤久次郎
１４０	アラスカ垂直と水平の旅	栗秋正寿	山と渓谷社	伊藤久次郎
１４１	ヒマラヤの灯 ホテルエベレスト　ビュウを建てる	宮原巍	文芸春秋	伊藤久次郎
１４２	山はいのちをのばすを	田中澄江	青春出版社	伊藤久次郎
１４３	山棲み記	小倉愛子	葦書房	伊藤久次郎
１４４	上高地　逍遥雑記	楠目高明	草思社	伊藤久次郎
１４５	植村直己の冒険を考える	本田勝一　武田文男	朝日新聞社	伊藤久次郎
１４６	笑ってよ、北極点	和泉雅子	文芸春秋	伊藤久次郎
１４７	私だけの北極点	和泉雅子	講談社	伊藤久次郎
１４８	冒険への出発　五大陸の山々で	ラインホルト　メスナー	山と渓谷社	伊藤久次郎
１４９	ヒマラヤ遠征・トレッキング入門	栗林一路	成美堂出版	伊藤久次郎
１５０	ヒマラヤ４００キロ	ＮＨＫ取材班	ＮＨＫ	伊藤久次郎
１５１	エヴェレスト　極点への遠征	ラインホルト　メスナー	山と渓谷社	伊藤久次郎
１５２	ヒマラヤの男	Ｎ・テンジン	紀伊國屋書店	伊藤久次郎

１５３	ヒマラヤ朝日小辞典	川喜田二郎	朝日新聞社	伊藤久次郎
１５４	中年からの山歩き入門	栗林一路	山と渓谷社	伊藤久次郎
１５５	山に生きる青春を賭けて値するもの	白旗史郎	大和書房	伊藤久次郎
１５６	ピッケルを持ったお巡りさん	富山県警山岳警備隊	山と渓谷社	伊藤久次郎
１５７	植村直己冒険の軌跡	山と渓谷社	山と渓谷社	伊藤久次郎
１５８	７０歳はまだ青春	脇坂順一	山と渓谷社	伊藤久次郎
１５９	九州の山と高原	折本秀穂	西日本新聞社	伊藤久次郎
１６０	野草のおぼえ方　上	いかりまさし	小学館	伊藤久次郎
１６１	アルパータ山のピッケル物語	芳賀淳子	自費出版	支部購入
１６２	周防アルハイク	安部正直	マツノ書店	井上　佑
１６３～１６５	探検と冒険　②③⑥	朝日新聞社	朝日新聞社	井上　佑
１６６	防長百山	安部正直	マツノ書店	井上　佑
１６７	稜線（創立７０周年記念号）	下関山岳会	下関山岳会	井上　佑
１６８	稜線（創立８０周年記念号）	下関山岳会	下関山岳会	井上　佑
１６９	風の旅人　第２８号	（株）ユーラシア旅行社	（株）ユーラシア旅行社	井上　佑
１７０	英彦山・犬が岳山地の自然と植物	熊谷信孝	海鳥社	支部購入
１７１	航	綱淵謙錠	新潮社	井上　佑
１７２	山里の釣りから	内山　節	日本経済評論社	井上　佑
１７３～１７４	極（上）・極（下）	綱淵謙錠	新潮社	井上　佑
１７５～１７６	毒（上）・毒（下）	綱淵謙錠	河出書房新社	井上　佑
１７７～１８１	山の本①～⑤	簑浦登美雄	白山書房	井上　佑
１８２	山の本　２０００冬	簑浦登美雄	白山書房	井上　佑
183～397	アルプ №８６～アルプ №３００まで連番	久保井理津男	創文社	井上　佑
３９８	花尾（花尾城築城８００年記念誌）	花尾山を愛する会	？	藤田　傳
３９９	田中澄江が歩いた北海道の山	滝本幸夫	北海道新聞社	支部購入
４００	朝鮮名山紀行	李　容極	朝鮮山岳研究会	井上　佑
４０１	防長木地屋に関する考察	井上　佑	山口県地方史研究	井上　佑
４０２	聖域の碑	新田次郎	講談社	井上　佑
４０３	極北に駆ける	植村直己	文芸春秋	井上　佑
４０４	稜線　下関山岳会　年報	下関山岳会	下関山岳会	井上　佑
４０５	稜線　６０年史	下関山岳会	下関山岳会	井上　佑
４０６	母なる大空	群馬県山岳連盟	群馬県山岳連盟	井上　佑
４０７	山岳　第１０８年（２０１３年）	日本山岳会	日本山岳	配　布
４０８	山岳展望ハンドブック②	佐古清隆	山と渓谷社	関口興洋
４０９	九州背振りの山山	吉川　満	葦書房	末吉史忠
４１０	九州の岳人たち―その登山史	日本山岳会福岡支部	日本山岳会福岡支部	末吉史忠
４１１	写真で見る九州の山	立石敏雄　編	しんつくし山岳会	末吉史忠
４１２	三百名山完登と富士山三百登	有元利通	羽衣出版	支部購入
４１３	一等三角点研究会会報聳嶺　６号	一等三角点研究会	一等三角点研究会	配　布
４１４	一等三角点全国ガイド（続）	一等三角点研究会	ナカニシヤ	配　布
４１５	山の病気とケガ	野口いづみ	山と渓谷社	購　入
４１６	我が山と南極の生涯	平山善吉	茗渓堂	業者様より
４１７	国語辞典　第三版		岩波書店	伊藤久次郎
４１８	みんなで山を考えよう	国際山岳年	左同	本　部
４１９	会員名簿　２００３	日本山岳	日本山岳	山田武史
４２０	日本雪山登山ルート集	中村成勝	山と渓谷社	原　広美
４２１	いま「山の日」制定	山の日制定議員連盟	書苑新社	本部から配布

会　務　報　告

● 平成26年1月定例役員会報告

・日　時：平成26年１月 ８日（水）
・場所：当支部ルーム（毎日会館１Ｆ）
・出席者：伊藤、板倉、関口、日向、馬場、山田、丹下、竹本、木原、池田、縄手、大楠、中岡
・欠席者：なし
・議　題
（１）会員の異動（１月１日現在）
通常会員　80人（＋－０）
支部友　　64人（＋２人、俵、三浦入会）
会友　　４人（＋－０）
計　　148人（＋２人）
（２）会費の納付状況
未納者は６人（前回より１人減）
（３）山行・行事報告
・11月10日(日)　茹ケ岳　悪天候で中止
・11月27日(水)　田原山は10人参加。
・12月 7日(土)　年次晩餐会(品川プリンスホル)は、当支部より７人参加。
・12月８日(日)～9日(月)天城山登山は５人参加。
・12月14日(土)　支部「年忘れの集い」は博多サンヒルズホテルで開催され、新入会員12人を含め37人が参加した。
・12月21日(土)　米神山（3月16日に延期した。）
・1月５日(日)　妙見岳・普賢岳（1月18日に延期した）
（４）山行・行事計画
・2月 ７日(金)～11日(火)　伯耆大山
・2月15日(土)～16日(日)　九重スキー場
・3月14日(金)～16日(日)　大佐スキー場
・3月30日(日)　御所ケ岳～馬ケ岳
・4月29日(火)　冠山～寂地山縦走
・5月24日(土)～25日(日)　英彦山山開き
（５）支部報発行について
「北九だよりNO.67号」は、本日全国に発送したことを報告。
（６）来年度(平成26年度)通常総会の日程と内容について
開催日は平成26年４月25日（金）として、場所は「リーガロイヤル」を始め小倉駅周辺の会場、及び講演者は「君原健二氏」の方向で、日向会員に先方との折衝をお願いした。
（７）平尾台での行方不明者捜索について
12月16日の捜索を最後に、取りあえず終了することにした。
平成26年２月23日に平尾台の野焼きが行われるので、その後再度捜索に入ることにした。
（８）安全登山、遭難対策の規約作成について
板倉副支部長を中心に、山行委員のメンバーで検討願うことにした。
（９）300名山の取材状況
当支部の担当は、脊振山と英彦山。文章は井上佑さん、写真は伊藤久次郎支部長が受け持たれたが、12月30日に本部宛写真等送付済み。
（10）その他
・幸幼稚園より、年長組（13人）のお別れ会として、３月18日に実施する門司区矢筈山の遠足登山のサポートの依頼があった。
当支部より関口、馬場、丹下、池田が参加する。

（記載者：山田武史）

● 平成26年３月定例役員会報告

・日時：平成26年３月 ５日（水）
・場所：当支部ルーム（毎日会館１Ｆ）
・出席者：伊藤、板倉、関口、日向、馬場、山田、丹下、竹本、木原、池田、縄手、大楠、中岡
・欠席者：なし
・会務報告：平成26年１月25日(土)～26日(日)開催された事務局担当者会議の内容について、山田事務局長より報告あった。
・議題：
（１）会員の異動状況（３月１日現在）
通常会員　79人（－１人、福田陽子）
支部友　　63人（－１人、小山、中村退会。藤原入会）
（２）会費の納付状況
未納者は５人（前回より１人減）
（３）山行・行事報告
・2月7日(金)～11日(火)　伯耆大山（参加者不足で中止）
・2月15日(土)～16日(日)　九重スキー場（参加者不足で中止）
（４）山行・行事計画
・3月14日(金)～16日(日)　大佐スキー場
・3月30日(日)　御所ケ岳～馬ケ岳
・4月 6日(日)　英彦山清掃登山
・4月12日(土)～13日(日)　園川学校（皿倉山１泊講習）

・4月20日(日)　岩登り教室(平尾台)
・4月29日(火・祝日)　冠山～寂地山
・5月 8日(木)　犬ケ岳
・5月11日(日)　皿倉山で園川学校
・5月18日(日)　岩登り教室(平尾台)
・5月24日(土)～25日(日)　英彦山山開き（前夜祭および山開き神事）
・5月30日(金)～6月3日(火)　徳本峠～上高地～焼岳
・6月 1日(日)　上高地でウェストン祭
・6月14日(日)　園川学校(沢登り)
・7月13日(日)　皿倉山で園川学校
・7月19日(土)～21日(月・祝日)沢水～稲星山～鳴子山
・7月29日(火)　水無鍾乳洞～井原山～アンの滝

（５）支部報（No,68）発行について
3月26日　支部報編集会議、４月初旬の発行。

（６）来年度（平成26年４月）通常総会について
4月26日(金)　15:00～20:00　リーセントホテルで開催、記念講演の講師は「君原健二」氏。詳細は４月２日の臨時役員会で取り決める。

（７）平尾台での行方不明者捜索について
3月８日(土)の野焼きで見つからぬ時、翌９日(日)北九州支部有志で捜索実施する。

（８）安全登山・遭難対策の規約作成について
板倉安全対策委員長を中心に、山行委員会のメンバーで協議の上、役員会に報告。

（９）槇有恒記念碑説明板の除幕式について
3月20日に森会長に来福願い、翌21日の除幕式を挙行する手順を打ち合わせた。

(10)「親子で楽しむ山登り」の２山追加について
第2弾は各支部とも２山追加された。当支部はその1山に、山口県の山が指名された。今後、対象の山を検討する。

（11）日向会員のアコンカグァ(6,960㍍)挑戦について
1月10日～2月２日、ガイド３人のサポートで６人が挑んだが、本人は6,100㍍の地点で断念。（尚、唯一人登頂した人も両手に凍傷）。再挑戦するそうです。

（12）その他
①、馬場財務委員長より25年度の収支決算報告書（案）の報告があった。
②、中岡監事より今年度で退任の申し出あり。

（記載者：山田武史）

安全登山講習会

2014年度講習会スタート

・講　師：JAC　No.5306　園川陽造　顧問
日本体育協会公認 山岳マスター上級コーチ
2011年秋藍綬褒章を受章、日本山岳会永年会員。

●第1回.　４月12日(土)～13日(日)
１．安全登山のため事故予測(予知)対策について
２．実践登山に関して体力の配分・日常のトレーニングについて
３．栄養・休養・運動の関係について
４．グループ員・リーダーの責任について
・会　場：「ふれあいの家北九州」・皿倉山
・集　合：12日(土)　16時「ふれあいの家北九州」
・会　費　1,500円

●第２回.　５月11日(日)
「救助技術・含む岩場」
・会　場：皿倉山
・集　合：９時30分
・集合場所：山麓ケーブル駐車場

●第３回.　６月14日(土曜日)
「沢登り」
・会　場：内住峡
・集　合：10時
・集合場所・ＪＲ篠栗線「九郎原駅」

●第４回.　７月13日(日)
「ザイルワーク」
・会　場：皿倉山
・集　合：９時30分
・集合場所・山麓ケーブル駐車場

・締切り：５日前
・申込み：竹本正幸(TEL 0930-28-9611)
縄手　修(TEL 093-472-5935）
※基本的に雨天決行

◇◇◇山行計画のご案内◇◇◇

1．支部会員、支部友会員による県外山行(北九州支部エリア外)は原則として「登山計画書」を事務局に提出しましょう。
2．登山終了後は、速やかに下山報告をしましょう。
3．遭難事故が発生すると、家族に多大な迷惑がかかります。山岳救助保険に加入しましょう。

4月の山行

１．岩登り教室（平尾台）

と　き：4月20日(日)
集　合：8時30分　平尾台茶ケ床園地
申込み：板倉健一　TEL 090-7163-1610
締切り：４月15日

２．冠山～寂地山 カタクリ観賞
（昨年度決定分）

目　的：冠山(1339㍍)山口県の山
と　き：４月29日（祝日）
行　程：(マイクロバス使用)
小倉駅(6：30)ー門司駅(6：45)ー新下関駅(7：15)
発ー下関IC－吉和IC－冠高原松ノ木峠
登山開始(10：00)
冠山山頂ー後冠山ー寂地山頂ー犬戻し林道下山
16：30予定
申込み：原　広美　TEL 090ー6832ー2128
TEL＆Fax083－245－5490
E-mail：hiromi-7h@kpe.biglobe.ne.jp
内藤正美　TEL 090-8993－0239
締切り：４月19日

5月の山行

１．岩登り教室 (陶ヶ岳)

と　き：５月18日(日)
集　合：８時30分　現地駐車場
申込み：板倉健二　TEL 090-7163-1610
締切り：5月3日
※　前日からの宿泊も可能（山小屋あり）

6月の山行

１．上高地ウエストン祭

日　程：平成26年５月30日(金)～６月２日(月)
４泊５日
行　程：
５月30日　小倉～新大阪～名古屋(新幹線)
～松本～新島々（泊）
５月31日　新島々～途中まで(宿の車)→徳本峠
小屋（泊）歩行時間：６時間
６月 １日　徳本峠(6:30)→上高地(9:30)
ウエストン碑前祭(10:00)、昼食会
上高地山荘(山研)　(泊)
６月 ２日　上高地→焼岳→中の湯温泉（泊）
６月 ３日　中の湯温泉～新島々～松本～名古屋
～新大阪～小倉
費用概算：(旅費)ＪＲ小倉～松本往復　約37,000円
ジパング利用者３割引き　約27,000円
（宿泊費）約30,000円（山研利用が前提）
申込み：関口興洋　TEL：093-382-6436、
E-mail：sekikoyo@sage.ocn.ne.jp
締切り：４月20日

２．犬ケ岳 （５月８日を変更）

と　き：６月８日（木）
集　合：午前8時30分時、犬ガ岳登山口駐車場
申込み：板倉健一　TEL 090-7163-1610
締切り：６月 3日

7月の山行

１．沢水～稲星～鳴子

と　き：７月19日（土）～21日（祝）
集　合：19日　15時　沢水キャンプ場(泊)
20日　沢見～稲星～鳴子～沢見
キャンプ場(泊)
申込み：内藤正美　TEL 090-8993-0239
締切り：７月５日（土）

２．井原山のキツネのカミソリ

と　き：７月29日（火）
集　合：９時30分　水無鍾乳洞　駐車場
申込み：山田武史　TEL 092-844-3563
締切り：７月20日

サ ロ ン ル ー ム

小倉サロン

１．４月23日(水)　午後５時から（ビデオ時間が1時間40分と長いため）

南アルプス山行ビデオ上映と反省会

ビデオ：2013年７月　南アルプス・荒川三山～赤石岳縦走

出演者：関口興洋、山田武史、伊藤久次郎、馬場基介、舛木 隆、高畠拓生、木原 充
森本信子、森 義雄、倉本とき子、福村拓己、井上 薫、大谷恵美子、畑井教子
※出演者は、なるべく参加して下さい。

２．5月28日(水)　午後6時から

10年前の記録ビデオ上映

「平尾台唐手岩での初心者岩登り教室」

岩場を安全に通過するための基礎訓練
2003年作品、DVD　（41分）

出演者：　板倉健一、磯野文雄、原 広美、森 さえ子、宮城尚志、西村俊二、西村信子
井上英俊、矢山 功、佐藤照美、野中芳子
吉岡千津子、吉岡亜津子、藤川美久子
制作：伊藤久次郎

３．6月25日(水)　午後6時から

ビデオ上映：DVD　(40分)

「高みへのステップ～岩登り技術編」

企画・制作：登山技術映像制作委員会

４．７月23日(水)　午後6時から

イタリア・ドロミテ最高峰「マルモラーダ登山」

記録ビデオ上映　2011年　ブルーレイ（約40分）

出演者：ガイド、マニュエル・アロンソ
原　広美、伊藤久次郎

・場　所：小倉北区魚町　「コール天」
・申込み：事務局 山田武志(TEL090-6422-5662)

博多サロン

１．５月１日（木）18時30分より

場　所：博多区吉塚本町13-55
サンヒルズホテル内　居酒屋「呑多来」

申込み：榊　俊一(TEL090-8416-4194)

ｔｏｐｉｃｓ　「山の日」

自民、公明、民主など超党派の有志議員でつくる「山の日」制定議員連盟は３月28日、毎年８月11日を「山の日」と定める祝日法改正案を衆議院に提出した。今国会で成立すれば2016年から実施される予定。（３月29日付け読売新聞朝刊より）

平成26年度 全国支部懇談会

１．主　管：日本山岳会埼玉支部
２．期　日：平成26年10月18日(土)～10月19日(日)
・10月18日(土)
講演(１)　「埼玉県の山岳遭難事例と安全対策」
埼玉県警山岳救助隊　飯田副隊長
講演(２)　「日本地質学発祥の地、秩父からの報告」
秩父まるごとジオパーク推進協議会
吉田健一氏
・10月19日(日)
登山コース(A)　両神山(1723㍍)
登山コース(B)　武甲山(1295㍍)
登山コース(C)　低山ハイク
３．会場・宿泊
ナチュラルファームシティ農園ホテル
〒368-8558　埼玉県秩父市大宮5911-1
TEL:0494-22-2000
４．参加費：16,000円
(夕食、交流費、2日目の朝食、昼弁当代を含む)
・両神山に参加する場合は、別途3,000円が必要
・交通費等については後日、参加者に連絡
５．申し込み：事務局　山田武史
TEL:092-844-3563
６．締切り：6月20日

＝ビ デ オ 上 映 会＝

ウエストン祭への道
「2004年6月(10年前)に行った徳本峠越え」

・と　き：5月14日(水)　午後6時から
・場　所：支部ルーム
・出演者
伊藤久次郎、関口興洋、浦田和夫、藤田傳、高畠拓生、高城季美子、横山洋子、坂本むつみ、坂本千佐子、室田安代、
※　終了後ルームにて懇親会

「親子で楽しむ山登り」完成

●ウエブサイト「親子で楽しむ山登り」は、「山登りをしている家族」や「これから山登りを始めようとする家族」または「子供たちを山に引率する方々」に利用していただくためのウエブサイトです。
北九州支部も平尾台を紹介していますので是非、ウエブサイトを開いてみて下さい。
●ハンドブックが必要な方は、北九州支部のルームにあります。

●内　容
1．家族で登れる全国の山を紹介
2．全国にある登山教室と自然学校を紹介
3．初めて親子登山をする方は必見です
4．山の妖怪や面白クイズが飛び出します
5．家族の登山記録を参考にしましょう
6．全国の山情報が掲載されています

本の紹介

「我が山と南極の生涯」

平山　善吉　著　　茗渓堂　　定価（4,000円＋税）

この本は、著者が昨年（2013年）秋、叙勲を受けられた記念に、急きょ身の周りの資料を集めて作られたものです。著者は、皆さますでにご存じのとおり、学者、探検家、登山家であり、日本山岳会第21代会長を歴任され、現在名誉会員です。

著者は、1956年日本大学工学部建築学科を卒業と同時に、第1次から第3次まで南極観測隊員に選ばれ、第3次では越冬隊員として活躍。映画にもなった有名な樺太犬タローとジローとの再会も経験されています。その後、日大教授や同大の常務理事を務められ、1995年に日本大学エベレスト北東稜登山総隊長として初登頂に成功されました。そのような永年の業績が認められ、1962年内閣総理大臣賞をはじめ数々の賞を受け、昨年「瑞宝小綬章」を受章されました。

本書は、著者が「何故山に登るのか」や、「どうして南極に行ったのか」という質問が多いことから、第１章「生い立ちの記」では、「山への芽生え」や「山と南極が生涯にわたって関わったこと」などが述べられており興味深い。このように本書は、著者が日々書き留めたものの中から、登山と南極を忘れ得ぬ記録としてまとめた人生の記録であり、青春の記録でもある。北九州支部ルームの蔵書として寄託しましたので、一読をお勧めします。　　（伊藤Q）

○新入会員(1月～3月)　支部友会員

北九470	藤井信義	宗像市	49才
北九471	藤井淳子	同　上	48才
北九472	町元里香	小倉北区	51才

○退会者(1月～3月)　通常会員

13520	西村信子
13530	浦田和夫
13534	舛木　隆
13810	西村俊二
14807	福田陽子

＝ 山岳会員(支部友)募集 ＝

1．入会金：1,000円
2．年会費：3,000円
3．月に1回.月例山行実施
4．安全登山講習会に参加できます
　連絡先：山田武史　TEL　092-844-3563

「日本山岳会」
団体登山保険 加入のおすすめ
加入対象者：日本山岳会 会員
●年齢無制限　●山岳登攀コース
　軽登山コース有り●国内旅行にも対応可
・資料請求先：
　株式会社 東海日動パートナーズ 東東京
　TEL：0120-161-808　FAX 0120-161-809

編集後記

エベレストの頂上直下の難所「ヒラリー・ステップ」に梯子を掛ける計画がネパール政府により検討されている。大混雑が常態化されている対策らしい。近い将来、鎖やロープが固定されるのでは、ヒラリーの時代は、遠く去りにけり・・・　M.T

○原稿は事務局長 山田武史又は竹本正幸へ。
・報告書は、コースタイムの記入をお願いします。
・メールまたはFAXでお願いします。
・Eメール（写真を含む）は竹本宛て
・アドレス：takemoto.masayuki@white.plala.or.jp
（69号の原稿は6月25日までにお願いします。）

山ヤが集う　吉すし（よし）

「魚と舎利とは、仲良いけれど
仲でわさびが邪魔をする」

●小倉北区京町３丁目６-14
●TEL：０９３-５４１-２６２３
●　橋爪　久吉（会員番号 北九４２３）
●　橋爪　明代（会員番号 北九４４２）

ご来店をお待ちしています

居酒屋　コール天

●小倉北区魚町1-2-23 桧山ビル2F
●TEL:093-522-0565
●ＪＲ鹿児島本線 小倉駅 南口 徒歩5分
北九州支部は毎月のサロンルームで
お世話になっています